Yokohama City Council Info 2

自民党横浜市会議員団ニュース（都筑区版）

Lib Dems
Liberal Democratic Party of JAPAN

編集発行

〒224-0045 横浜市都筑区東方町 594-1
TEL.045-482-7072 FAX.045-482-7488
横浜市会議員 長谷川たくま 政務活動事務所

TOPICS

1面 抗インフルエンザ薬備蓄に関する協定締結
インフルエンザへの予防対策
2面 ノロウイルスへの予防対策

横浜市健康福祉局食品衛生課では、ノロウイルス（新型）について大流行のおそれから、「ノロウイルス警戒情報」を発表しました！（関連記事ウラ面）また、新型インフルエンザの流行に備え横浜市と横浜市薬剤師会で抗インフルエンザ薬備蓄に関する協定を締結しています。

薬剤を使用期限切れにより廃棄することなく備蓄することが可能に！

新型インフルエンザ発生時に、臨時の専門外来「帰国者・接触者外来」の医療従事者が予防内服するための抗インフルエンザ薬の備蓄に関して、横浜市と一般社団法人横浜市薬剤師会が協定を締結しました。

❶ 趣旨・対応

横浜市薬剤師会と協定を締結することで、病院での備蓄に加えて薬局においても抗インフルエンザ薬の備蓄を行います。薬剤流通の中心に位置している薬局では、一般患者への調剤及び使用分の補充を通して薬剤を循環させることにより、常に新しい薬剤の備蓄が可能になります。

❷ 協定の概要

（1）横浜市薬剤師会において薬剤を調達します（調達費用は横浜市負担）。
（2）横浜市薬剤師会の指定する薬局において薬剤を備蓄します（保管費用は横浜市負担）。
（3）新型インフルエンザ発生時には横浜市の要請により、横浜市薬剤師会は外来設置医療機関に薬剤を提供します。

❸ 期待される効果

薬剤を循環させることで、薬剤の期限切れによる廃棄を回避することができ、再購入の必要がなくなることから、横浜市の負担軽減につながります。また、新たな抗インフルエンザ薬が開発された場合などには順次備蓄薬剤を新薬に置き換えていくことも可能となります。

インフルエンザにご注意！

今シーズンはインフルエンザの予防接種料金が値上がりします。理由は予防接種の効果を高めるため、対応するウイルスの種類を３種類から４種類に増やしたためです。今まではＡ型とＡ型香港型の２種類と、Ｂ型山形型かＢ型ビクトリア型のどちらか1種類を専門家（厚生労働省やWHO）が選んでいましたが、Ｂ型の２種類ともに流行が続いているため今回４種類対応型に切り替わりました。この変更によってウイルスに対応する確率が高まりますが、あくまでもたくさんあるウイルス型の中の４種類に対応したものです。予防接種に合わせて感染対策には日々の予防行為が有効です。インフルエンザ感染にご注意下さい。

外から帰ったら、うがい・手洗いを心がけましょう

外出の後はうがいと石鹸での手洗いを心がけましょう。喉や手に付着したインフルエンザウイルスを洗い流すことができ、感染を防ぐことができます。

部屋の湿度を保ちましょう

インフルエンザウイルスは湿度40%以下で活性化し拡散します。部屋の中では加湿器などを使い、50%以上の湿度を保ちましょう。

予防接種を受けましょう

インフルエンザの予防接種は、接種後２週間から５か月程度予防効果が持続すると言われています。（13歳以下は２回接種が必要です。）2015年は例年より早い９月からインフルエンザ発症が報告されています。予防接種は発症する可能性を低減させ、もし発症しても重症化防止の効果があると言われています。予防接種の利用もインフルエンザ予防法の一つです。

マスクマナー

インフルエンザに感染していても、全く症状のない不顕性感染例などがあります。本人も気づかずに周囲にウイルスをまき散らすことを防ぐため

❶普段から他人に向けて咳やくしゃみをしない
❷咳やくしゃみが出るときはマスクを着用する
❸手のひらで咳やくしゃみを受け止め、手をすぐに洗う

を心がけましょう。

インフルエンザの主な感染経路は、咳やくしゃみで口から飛び散る飛沫による飛沫感染です。インフルエンザ感染拡大防止のため、飛沫を飛ばさないようにマスクを着用し、マスクマナーを心がけましょう。
一般的にインフルエンザ発症前日から発症後3～7日間は鼻や喉からウイルスが排出されます。排出されるウイルスの量は解熱と共に減少しますが、解熱後も排出されることがありますのでマスクの着用が感染拡大防止に有効です。

都筑区は横浜市内で平均年齢が最も若く、現在都市開発が進行中の元気な区です。価値観や生活様式が多様化するなか、「都筑区に住んで良かった」と思える地域を作り上げるため、しっかりと皆さんの声を市政に届けてまいります。

横浜市会議員 長谷川たくま

都筑区選出・横浜市会議員

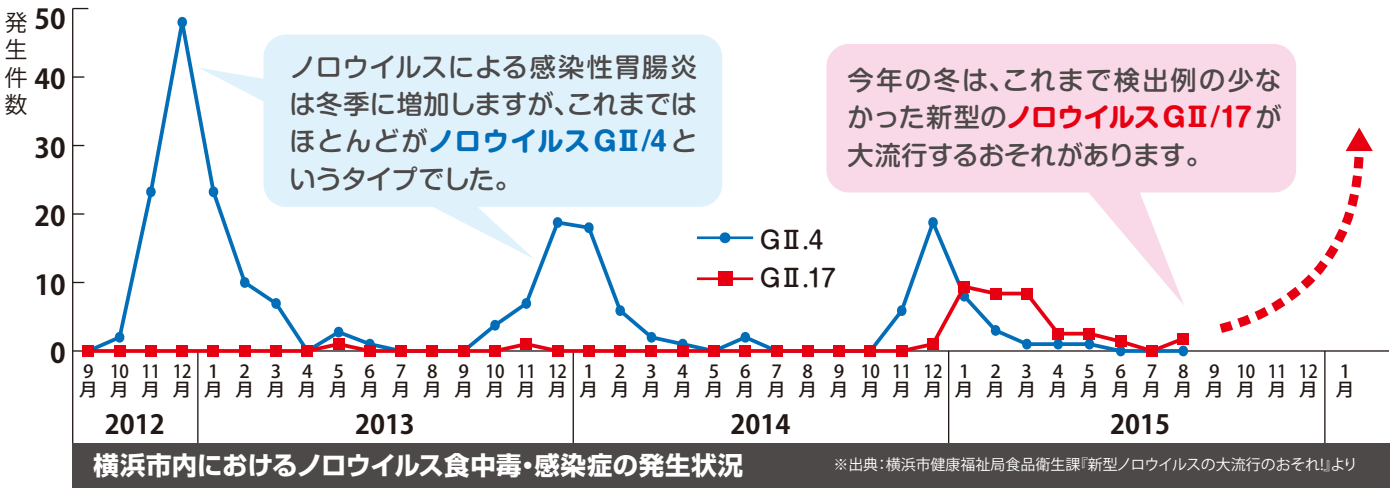
長谷川たくま（琢磨）

力強くたくましく

●昭和54年生まれ（36才）横浜市都筑区東方町在住
●2015年４月横浜市会選挙 都筑区より初当選

ノロウイルスの新型(GII/17)が確認され、2006年のような大流行が危惧されています。

ノロウイルスは一度感染すると免疫ができるため、次の感染の可能性を低減させ、もし発症しても軽症で済むと言われています。2006年以降、GII/4型のノロウイルスが9割を占め、したがって免疫を持つ人も増えました。しかし今回危惧されている新型に対しての免疫は殆んどないため、感染が一気に広がり、爆発的発生を引き起こすことが心配されています。



横浜市内におけるノロウイルス食中毒・感染症の発生状況

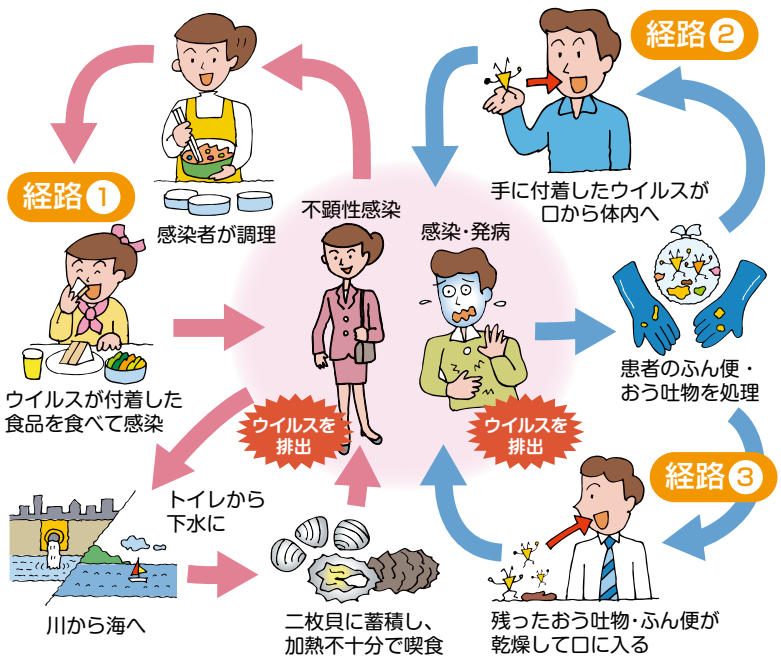
※出典:横浜市健康福祉局食品衛生課『新型ノロウイルスの大流行のおそれ!』より

症状

ノロウイルスの感染による潜伏期間(感染から発症までの期間)は24～48時間で、吐き気、嘔吐、下痢、腹痛が主な症状で、発熱は一般的に軽度(37℃～38℃)です。特に、突然の吐き気や嘔吐が特徴的で、室内等での嘔吐が部屋を汚染し、二次感染を引き起こす原因となります。一般的に、症状が1～2日続いた後、治癒し、後遺症は残りません。感染しても全く症状のない不顕性感染や、軽い風邪や悪寒、あるいは吐き気だけのような症状の場合もあります。しかし体力の弱い乳幼児や高齢者では、まれに嘔吐物を喉に詰まらせたことによる窒息や誤嚥性肺炎による死亡が報告されています。ご注意ください。

3種類の感染経路

一般的に症状は数日で快方に向かいますが、便には1週間程度、長い場合は1か月以上の長期間に渡りウイルスが含まれています。そのため便の中のウイルスが手指に付着すると、二次感染や集団感染の感染源となり、その感染経路は大きく3つに分類されます。



❶食品媒介感染(食中毒)

ウイルスに汚染された食品を食べたり、ノロウイルスに感染した人による調理で、食品や水が汚染され、それを飲食したことによる感染

❷接触感染

感染した人の嘔吐物や便に触れ、それが手や指を介してウイルスが口から入る直接的な接触と、感染者の触ったドアノブなど、気づかないうちに触れる間接的な接触による感染

❸飛沫感染・塵埃感染

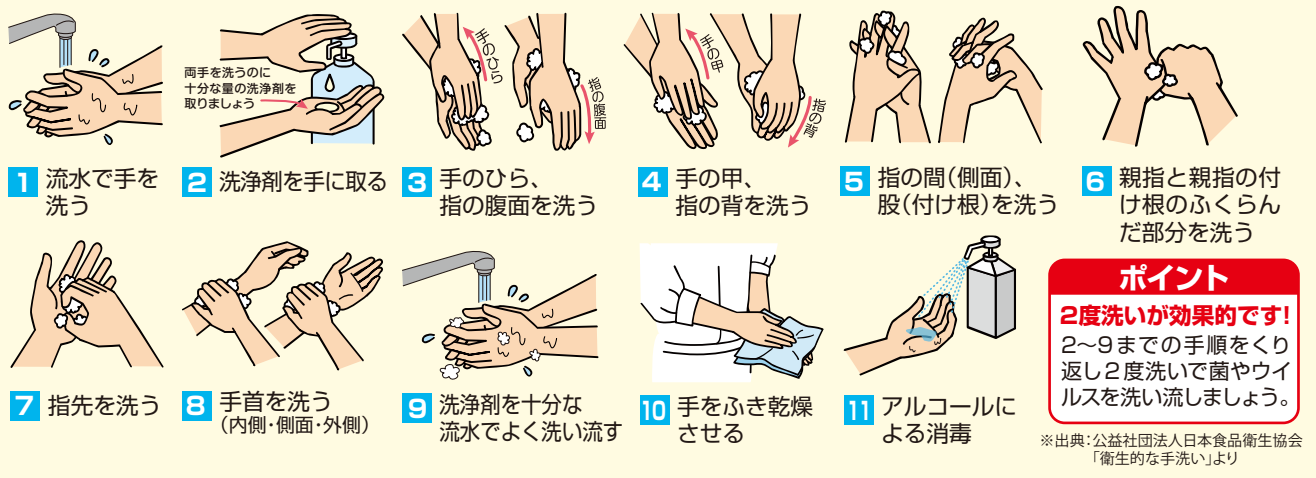
感染者の嘔吐物や便が飛び散り、ノロウイルスを含んだ小さな粒子が口から入る感染と、感染者の嘔吐物や便の処理が不十分なため、それが乾燥して塵や埃となり空気中に漂い、それが口から入る感染

※出典:東京都多摩府中保健局『防ごう!ノロウイルス感染』より

予防方法

効果的な予防方法は手洗いです。石鹸やアルコール消毒では死滅せず、手洗いでウイルスを洗い流すことが最も効果的な予防方法です。残念ながらノロウイルスを死滅させるには、次亜塩素酸(漂白剤)が必要です。なお、次亜塩素酸系消毒剤で、手や体を洗うのは危険なので絶対にやめてください。

正しい手洗い方法



1 流水で手を洗う
2 洗浄剤を手に取る
3 手のひら、指の腹面を洗う
4 手の甲、指の背を洗う
5 指の間(側面)、股(付け根)を洗う
6 親指と親指の付け根のふくらんだ部分を洗う
7 指先を洗う
8 手首を洗う(内側・側面・外側)
9 洗浄剤を十分な流水でよく洗い流す
10 手をふき乾燥させる
11 アルコールによる消毒

ポイント
2度洗いが効果的です!
2～9までの手順をくり返し2度洗いで菌やウイルスを洗い流しましょう。

※出典:公益社団法人日本食品衛生協会「衛生的な手洗い」より

トイレの使用後は、ふたを閉めずに流すと、水しぶきと一緒にウイルスが飛散するので必ず閉めて流しましょう。

対処療法

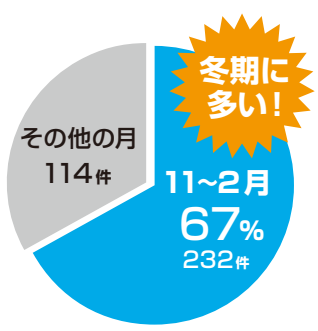
ノロウイルスにはワクチンや特効薬がありません。感染後は脱水症状防止のため水分補給が一番大切です。他には吐き気止めや整腸剤を飲むなどが一般的な対処療法と言われています。

嘔吐物、便処理方法

感染者の嘔吐物や便にはノロウイルスが大量に含まれています。わずかな量のウイルスが体内に入るだけで簡単に感染しますので、処理方法には細心の注意が必要です。まず処理する人員を最小限にし、他の人は3m以上遠ざけ、最悪の事態を最小化します。処理する人はマスクと手袋を必ず着用し、うすめた塩素系消毒剤で嘔吐物や便の場所を中心に広範囲の消毒をしてください。またふき取った雑巾やタオルはビニール袋で密閉し、廃棄します。衣類が汚れた場合、洗濯機内部にノロウイルスが付着するので洗い方にも注意が必要です。

ノロウイルスの感染の多い時期は毎年11月頃から翌年の4月頃です。今年は新型による大流行が予想されています。特に保育園、幼稚園、小学校など、子供達が集団生活をする場所は、一度感染が始まると次々に感染が拡がり、爆発的に流行することがあります。過去の集団感染は、ヒトからヒトへの感染が大半で、感染力が強力なため流行を最小限に食い止めるためにも、ノロウイルス感染症の症状、感染経路、予防方法、対処療法、嘔吐物・便処理方法を励行してください。

感染が疑われた場合、保健所やかかりつけのお医者様にご相談ください。早い診断、適切な対処療法、感染経路確認により、感染拡大を防ぐことができます。



ノロウィルス食中毒の発生時期別の件数(年間)

※出典:厚生労働省 食中毒統計(平成22～26年の平均。病因物質が判明している食中毒に限る)